

I-A-08 糖尿病合併妊娠および妊娠糖尿病における heavy-for-dates 児の予知因子としての HbA<sub>1c</sub> 値の意義

三重大学医学部産科婦人科

中山愉紀子、杉山 隆、日下秀人、菅谷重弓、豊田長康

【目的】糖代謝異常妊娠において、血糖コントロール状態は heavy-for-dates (HFD) 児や奇形や新生児合併症の発症率と関連することが知られている。今回我々は、血糖コントロールの指標を HbA<sub>1c</sub> 値とし、HFD 児の発症との関係を調べ、その予知因子となり得るか検討した。【方法】1990 年から 1999 年に当センターで管理した糖尿病合併妊娠および妊娠糖尿病 (GDM) 妊婦 94 例を対象とし、妊娠初期・中期・末期の HbA<sub>1c</sub> 値と、HFD 児発症および infant birthweight ratio (IBR; IBR = 出生児体重/在胎週数・性別・既往妊娠歴を対応させた平均体重) との関係を検討した。【結果】糖尿病合併妊娠では妊娠末期の HbA<sub>1c</sub> 値は、HFD 児発症および IBR の間に有意な相関を認めた。【結語】GDM では妊娠中の HbA<sub>1c</sub> 値は HFD 児発症の予知因子とならなかったが、糖尿病合併妊娠では妊娠末期 HbA<sub>1c</sub> 値は HFD 児発症の予知因子となり得ると考えられた。